

すべての子ども・若者に「安心」と「希望」を！

HAPPY MIE PROJECT



楽しみです！「津駅周辺道路空間検討会」始まる！

県庁所在地の玄関口である津駅周辺の道路空間を、駅周辺の活性化や防災等の視点から検討する「津駅周辺の道路空間検討会」が設立され(2020年7月31日)、検討が始まっています。2021年12月に開催された第2回検討委員会では、4つの基本コンセプト(案)として、
①三重の玄関口となる象徴的な空間に
②新しい出会い・発見がある空間に



現在の津駅周辺

雲出川、赤川整備は、着実にすすんでいます！

私は、この10年間、赤川流域の須ヶ瀬地区、宮古地区、平生地区の3地区から、雲出川・赤川の整備に関する強い要望をいただき、地域の皆さんとともに推進に取り組んできました。

その結果、国管理河川である雲出川については、平成26年に雲出川整備計画(概ね20～30年間)が策定され、戦後最大規模の洪水(昭和57年8月洪水)と同規模の洪水が発生した場合にも、家屋浸水被害の防止を図るため、計画遊水池や堤防の嵩上げ等の対策が計画されており、現在は、中流部の須ヶ瀬地区等で河道掘削等が実施されています。

③大規模災害にも強く安全な空間に ④カーボンニュートラルの実現に向けた空間に

が示され、津商業高校の生徒から「私たちが考える津駅前開発」等の意見発表もありました。津駅周辺が、子どもや高齢者、障がいのある方など誰もが、安全に安心して利用し楽しめるよう、また、津駅周辺がよりにぎわうような、道路空間となるよう、県民の皆様の声に耳を傾けながら、取り組みます。



第2回「津駅周辺の道路空間検討会」開催！

県管理河川の赤川については、2021年度から整備計画の検討に着手しています。内容については、赤川の河道拡幅や堤防整備等のハード対策をはじめ、危機管理水位計の設置などのソフト対策も含め、県としての具体的な対策の検討をすすめています。また、整備計画の策定にあたり、学識経験者から意見を聞くため、三重県河川整備計画流域委員会が近々開催される予定です。今後も引き続き、雲出川、赤川の整備が一日も早くすすむよう取り組みます。



雲出川中流域の地元説明会開催！

YOU(あなた)とYUYA(ゆや)をつなぐYY(わいわい)通信

YY通信
27号
2022年

ゆや活動報告

発行責任者／三重県議会議員 杉本熊野

新型コロナウイルス感染症の収束が見通せず、私たちは、未だ不安と不安定のなかにあります。人と人の距離の確保や、日々の活動の制限が強化されるほど、私たちは、人とのつながりの嬉しさや、これまで当たり前であった日常の大切さに気づかされています。新型コロナは、飲食業や観光・宿泊業、その関連事業者など、中小企業・小規模事業所に大きな打撃を与えています。また、非正規労働者、なかでも外国人や女性たちが大変厳しい状況におかれており、ひとり暮らしの高齢者、児童虐待など、必要な支援が届かない人々もいます。政治は、誰もが安心して生きられる社会をつくるためにあります。格差拡大を是正し、社会的弱者、生活者、働く人を大切する視点がこれまで以上に必要です。誰もが安心して暮らせる社会をめざして、今後とも精一杯取り組みをすすめます。皆さまのご指導ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



南ヶ丘 地域サロンにて

あるく！きく！活動報告

県内外の調査や地域を歩くことにより、多くの皆さまと対話をし、県政の課題をつかむ活動です。Vol.13



地球温暖化は、人類最大の危機です。私は、100年後の地球環境に想いを寄せ、環境問題に取り組みます。

みんなで、ペットボトルリサイクルを！

プラスチックごみ対策として、使用済ペットボトルを回収し、再びペットボトルにする事業「ボトルtoボトル」のモデル事業が、津市内で始まりました。ペットボトルのリサイクルは、これまで作業服やプラシート等へのリサイクルでしたが、こうした従来型のリサイクルは、例えば作業服であれば汚れ等の理由で、結局は「ごみ」となり、最終的には焼却され、CO2の排

出につながっています。しかし、「ボトルtoボトル」は、理論的には永遠にリサイクルの「環」をつくることができ、CO2の抑制につながります。また、世界中の海に流出しているプラスチックごみが、海の生態系に深刻な悪影響を及ぼしています。使用済みペットボトルは、みんなでペットボトルに再生しましょう！



集められた大量のペットボトル
西日本PETボトルMRセンター(津市鋼管町)

11月20日
雲出川中流域に
こんなゴミが！

豊ヶ丘の皆さんと
エコウォークに
参加!!



ゴミの中に
便座が！
プラスチックごみは
川から海へと
流出！



県政・県議会に対しての
ご質問やご意見をお待ちしています。

杉本ゆや事務所 〒514-0003 津市桜橋2丁目142
TEL 059-226-6252 FAX 059-227-7139

この3年間
さまざまな活動をおこなって
まいりました！



杉本ゆや 2019~2021年の活動をふりかえり…

活動
01

ひきこもり支援を すすめます！

全国初！
「三重県ひきこもり
支援推進計画」
策定!!

私は、「ひきこもり支援を考える三重県議会議員有志の会」として、ひきこもり支援の充実に取り組んでいます。この3年間、三重県内の居場所等ははじめ、全国各地の先進事例を調査し、三重県の取り組みを検証し、一般質問（2020年10月5日）などで支援策を訴えてきました。

〈県外視察先〉

- 佐賀県ひきこもり地域支援センター
- 福岡県立大学附属研究所
「不登校・ひきこもりサポートセンター」
- 富山市共同生活寮「ピースフルハウスはぐれ雲」
- 岡山県総社市ひきこもり支援センター
- 秋田県藤里町社会福祉協議会

その結果、三重県は、令和3年度ひきこもりに特化した推進計画を、全国ではじめて策定し、令和4年度から、新たな体制に基づく支援をすすめることとなりました。

また、県民ははじめ各関係者の皆さまと、課題を共有し、今

後の取り組みについて考え合う機会として、「ひきこもり支援フォーラム」を開催しています。

- 第1回ひきこもり支援フォーラム(2021年4月10日開催)
 - 第2回ひきこもり支援フォーラム(2022年4月16日開催)
- ひきこもり支援は、分野を超えて、重層的に連携する仕組みをつくることが重要です。今後も、各関係者の皆さまと連携し取り組みをすすめます。

第2回
ひきこもり支援フォーラム
開催します 入場無料

日時
2022年4月16日(土)
14:00~16:30(受付13:00~)

場所
三重県総合文化センター 中ホール



いなべ市
ひきこもり
支援センター
瑠璃庵

1月7日

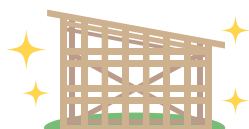
活動
02

「三重の木」利用を すすめます！

私は、子どもたちが一日の大半を過ごす学校施設は、どこよりも美しく豊かであってほしいと、長年思い続けています。そこで、一般質問（2019年10月2日）で、公立小中学校が、今後15年間で、築45年を経過する施設が約7割を占めることや、「みえ公共建築物等木材利用指針」をふまえ、「木の学校づくり」(木造化・木質化)の推進を訴え、「県産材利用促進条例」策定を要望しました。

これを受け、2020年2月に三重県議会「三重県産材利用促進に関する条例検討会」が設置され、私も検討会のメンバーとして調査や議論を重ね、2021年3月「三重の木づくり条例」が制定されました。

条例では、「県の整備する公共建築物等の原則木造化・木質化」「県産材の優先的使用」等が盛り込まれ、現在進行中の三重県立盲学校及び聾学校の新築移転(令和6年度完成予定)による新校舎は、「三重の木」を中心に用いる木造建築群となる予定です。



木の学校づくり

2022年も精一杯がんばります！

ご指導・ご支援を
賜りますよう
お願いいたします！

私は、共生社会の推進に、スポーツは大変有効だと実感しています。障がいの有無にかかわらずスポーツを共に楽しむ三重が、「三重とこわか大会」のレガシーとなるよう取り組みます。

▶ 障がい者スポーツの推進

三重県は、三重とこわか大会(全国障がい者スポーツ大会)を契機に、選手の発掘・育成、支える人づくり、環境整備等に取り組む、障害のある人の社会参加を推進してきました。

この成果を一過性に終わらせることなく、継承し発展させていくこと、さらに競技力向上の推進をはかることを、一般質問(2021年6月16日)等で、強く訴えてきました。

その結果、令和4年度、三重県は「三重県障がい者スポーツ支援センター」を設置し、合同練習の実施やフォーラムの開催、相談窓口の開設など、障がい者スポーツを「する」「みる」「支える」を総合的にすすめる予定です。また、障がい者アスリートの育成・強化にも取り組みます。

12月11日



「支える人」の体験会に参加

活動
03

三重とこわか国体・ とこわか大会の成果を 次へつなぎます！

▶ 競技力の向上

三重国体の開催が正式決定されて10年。この間、三重県と各競技団体等は選手や指導者の育成に取り組む、その成果は今、各大会で三重県選手が活躍する姿として現れてきています。

卓球競技では、2022年全日本卓球選手権大会(1月30日)で、津市出身の戸上隼輔選手が、男子シングルス・男子ダブルスで優勝しました。

スポーツの力で、子どもたちに夢を！三重を元気に！

戸上隼輔選手(卓球)全日本で優勝！



1月31日

活動
04

見て 知って つながって ひろがれ! 三重の農福連携

近年、高齢化と人口減によって農業に携わる人が減少し、担い手不足や耕作放棄地が大きな課題となっています。一方、障がい者が自分らしく生き生き働ける場は、非常に限られています。この双方の課題を解決する取り組みとして、今、「農福連携」に期待が集まっています。私は、この10年間、「農福連携」の推進に取り組んできました。(2012年9月28日一般質問、2019年10月2日一般質問等)

三重県においては、2016年に(一般社団法人)三重県障がい者就農促進協議会が設立され、ワンストップ窓口

の整備や農業ジョブトレーナー等の専門人材の育成、障がい者の施設外就労などの取り組みが、県との連携のもとすすめられています。その結果、令和2年度末、47事業所と22の農業経営体で農福連携が取り組みられ、636名(福祉事業所600名、農業経営体36名)の障がい者雇用につながっています。

また、この取り組みは、林業分野(キノコ栽培、苗木生産)や水産分野(黒ノリやワカメの種苗生産)にもひろがっています。今後も、協議会と県が一丸となって推進していけるようすすめます。

農家への
施設外
就労です



和心楽心ファーム(新家町)

2021年
活動
アルバム



水産資源を取り巻く環境は厳しい!



須ヶ瀬はアサギマダラを待っています



大好きです! 甘〜い 津名産の梨



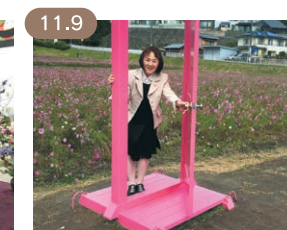
県庁前花時計のボランティアさんに感謝



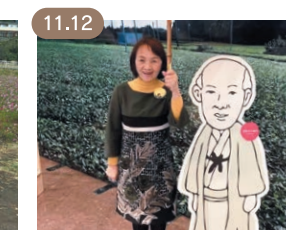
子どもたちの笑顔が一番!



地域文化拠点 ゆずり葉10周年記念作品展



あったらいいな! どこでもドア



伊勢茶をもっと好きになる企画展



力強いアスリートの皆さんです